

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

図書館は 住民の自立支援拠点たれ

『地方自治と図書館』

片山善博（法学部教授）、糸賀雅児（文学部教授）共著
勁草書房 / 2484円（2017年1月）



「図書館を『無料貸本屋』と揶揄する人が自治体運営に当たる人の中にさえいる。これは誤解と無理解ゆえである」(片山)。「図書館は民主主義社会と情報化社会において不可欠な社会基盤(インフラ)との認識を、地方自治に関わる人びとの共通理解としなければならない」(糸賀)。

かつて鳥取県知事として積極的な図書館政策を進めた片山教授と、図書館政策論の専門家でもある糸賀教授の二人が、地方自治と地域づくりの観点から、公共図書館の課題を論じ合う。図書館は、楽しみの読書を超えて、国民の自立支援をサポートできるのか？

教職員執筆の新刊

- 安藤寿康（文学部教授）著
『日本人の9割が知らない遺伝の真実』SB新書 / 864円（2016年12月）
- 大石 裕（法学部教授）著
『批判する / 批判されるジャーナリズム』慶應義塾大学出版会 / 1944円（2017年1月）
- 前野隆司（システムデザイン・マネジメント研究科教授）、保井俊之（同特別招聘教授）著
『無意識と対話する方法―あなたと世界の難問を解決に導く「ダイアログ」のすごい力』ワニブックス / 1512円（2017年1月）
- 岡部光明（名誉教授）著
『人間性と経済学―社会科学の新しいパラダイムをめざして』日本評論社 / 6912円（2017年2月）
- 大西公平（理工学部教授）著
『リアル』を掴む！―力を感じ、感触を伝えるハプティクスが人を幸せにする』東京電機大学出版局 / 1728円（2017年2月）
- 山本信人（法学部教授）監修
『東南アジア地域研究入門 1環境 / 2社会 / 3政治』慶應義塾大学出版会 / 各3888円（2017年2月）

慶應義塾この一冊

『パリの福澤諭吉』

山口昌子著
中央公論新社 / 1728円
2016年11月



米国に続き、文久遣欧使節団の一員としてヨーロッパ各国を訪れた27歳の青年・福澤諭吉のパリでの日々をいきいきと描く一冊。精力的に情報を収集し、欧州各国の思惑を分析した若き福澤が、日本国の独立自尊へ思いを深めていく過程が見える。またパリで撮られた肖像写真の謎解きめいた追跡も興味深い。義塾文学部を卒業後、パリで20年以上新聞記者として活躍した著者の、ジャーナリストらしい明晰で読みやすい文章も魅力だ。